

A  
8

● 組合と社会を【まるで電流】のようにつなげる SDGs

## 千葉県電気工事工業組合

住 所	〒260-0005 千葉県千葉市中央区道場南1-9-15		
U R L	<a href="http://chidenko.jp/index.htm">http://chidenko.jp/index.htm</a>		
設 立	昭和40年10月	主 な 業 種	電気工事業
組 合 員 数	1,013人	出 資 金	60,748千円

## ■背景・目的

当組合は電気工事業者が大同団結して組織された協同組合で、50年以上の歴史を持つ。電気工事士免状交付事業や講習事業を展開する一方で、電気工事に付き物である廃電線のリサイクルや電気工事業界で女性が活躍できる場の創設に対する問題意識を常に持ちながら活動している。今般、上層部の当事者意識の高さから女性部を設立するとともにNPO法人と協力体制を築くことで、福祉施設が抱える障がい者の就労機会問題の解決の一助としてリサイクルを位置付けた。

## ■取組みの手法と内容

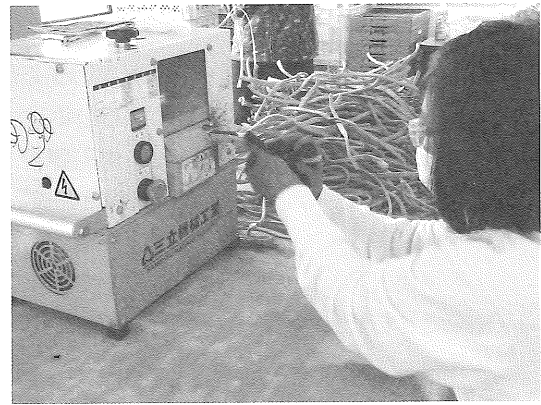
当組合の特徴は、上層部の当事者意識の高さと外部連携を積極的に取り入れる視野の広さである。廃電線のリサイクルは運搬や分別といった手数の多さから取組みに対する心理的障壁が働きやすかったが、NPO法人との連携を役員自ら作り出すことで、NPO法人を経由した福祉施設との分業体制を敷く廃電線リサイクルルートを確認させた。組合は収集した廃電線をNPO法人に提供し、運搬や分別等の手間部分を排除しながら廃電線をリサイクルできる一方で、福祉施設ではNPO法人から分配される廃電線の分別作業が障がい者の継続的な就労機会の確保に繋がり、リサイクルによる環境保全に限定されない社会貢献を実現させた。

女性部の設立では委員会の委員を筆頭に、一支部にあった女性グループを組織化させている。グループ内には活動に対する温度差もあったが、女性が働きやすい環境整備は巡り巡って自身の労働環境改善に繋がると説き、1人の脱退者も出さずに女性部を設立させた。女性部の会長は組合の役員にも就任しており、電気工事業界における女性の地位を確立させたパイオニアといえる。

広い視野と当事者意識の高さが、性別や業種の垣根をこえたSDGsを実現させる。当組合は組合内で完結させることなく、今後も外部連携等による副次的な効果を狙う。

## ■成果とその要因

組合の広報活動も手強い、廃電線のリサイクルでは令和3年度に廃電線の収量569kgを記録し今年度は1tに到達する見込みである。女性部でも新たに1名の参加希望者があり、女性部の存在が広く認識されつつある。今後は電気自動車用充電設備整備にも着手する考えがあるので、広い視野を持つためにも既存事業を含めた外部連携を模索していく。



福祉施設における障がい者の作業風景



分別後の廃電線(左:被覆、右:芯線)



R3年3月 千葉県電気工事工業組合 女性部設立時



## Point!

組織上層部の高い当事者意識を武器に、自身が抱える課題を解決するに留まらず、外部組織の抱える課題の解決にも一石を投げ、みんなが参加できる社会の構築に貢献する。